

## 第5章 地域の行動

### 第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

#### 環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議となります。

地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

#### 6地区の位置図



### 中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

浅川の定期巡回やイベント等の実施ではホトケドジョウ・カジカが見られ、水質が良くなって来ている事が分かります。しかし一地区の問題ではない「水量の低下」が引き続き見られます。

まちなかウォッチングでは「多くの寺社を持つ市街地」という中央地区の特色を講師と共に歩きながら市民も会員も心新たに学ぶ事ができ、毎回好評を得ています。また、市民センターまつり・商店街自治会等のイベントに参加し、環境クイズを用いて「省エネやごみ資源の分別」を長年継続しており、少しずつでもごみの正しい分別への理解を広めています。生ごみ削減に向けたダンボールコンポストの講習会支援など、これからも活動のPRの方法をより検討して、多くの市民参加者を呼びかけていきたいと考えます。

## ■ 中央地区の主な取組

### 1. 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

市民の方々に省エネの具体的な方法や温暖化の問題を伝える人材を育成するため、26年度、各地区環境市民会議からスタッフを募集し、27年度も勉強会を実施しました。省エネルギーセンター主催の「家庭の省エネアドバイザー検定」合格者を「八王子市エコひろば家庭の省エネアドバイザー」と設定。市民向けに省エネ講座を企画し、6月20日エコひろば、6月28日中野市民センター、11月26日中野西一町会、12月1日子安市民センター、3月8日明神町4丁目会館で「家庭の省エネ講座」を実施しました。4月にゴーヤの苗作りを実施し6月の環境フェスティバルでクイズの景品として配布しました。八王子市温暖化防止センターでの家庭部会・運営委員会に参画し、夏・冬の省エネチャレンジや12月の環境講演を支援しました。



省エネ講座（子安市民センター）

### 2. ごみの分別徹底とリサイクルの推進

4月の春のみずき通りフェスティバル、7月の中野市民センター七夕まつり、10月の子安・台町・大和田市民センターまつり、11月のいちょう祭り、1月の西八ハイツ新春餅つき会に「環境コーナー」を設け、クイズを通して正しいごみの分別を説明し、クイズの景品として生ごみから作ったたい肥を配布しました。また10月の秋のみずき通りフェスティバルではPTAからの依頼で小学生を対象にリサイクルマーク当てクイズを実施。エコひろばでは「もったいない委員会」や「みんな集まれ委員会」に参画し、「あったかホールまつり」や「こどもかんきょうまつり」等のイベントを支援しました。



リサイクルマーク当てクイズ  
（秋のみずき通りフェスティバル）

ダンボールコンポスト事業では八王子市生ごみリサイクルリーダーとして支援しました。

### 3. 河川の清掃活動

浅川の清掃は、河川巡回観察で清掃活動場所を見定め、河川敷や水際を主体に3回／年実施し、その他河川でのイベントの際に水際や橋の下などの河川敷の清掃を積極的に行いました。多くの会員の協力により、清掃範囲を拡げて活動することができました。より良い水辺環境を確保し、親しまれる浅川であるようにこれからも地道に努力していきます。



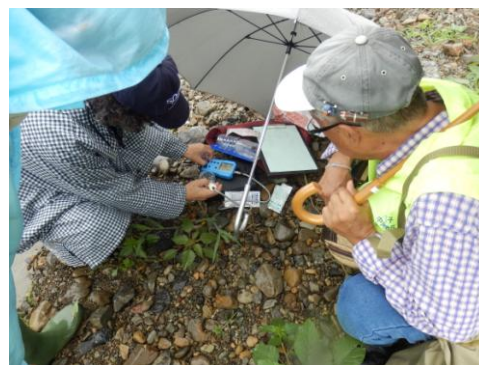
浅川の清掃活動

### 4. 河川の巡回観察・調査活動の推進

浅川の巡回観察を実施し、会員に内容を報告しました。

6月7日に身近な水環境の全国一斉調査に参加し、浅川大橋と鶴巻橋下の地点で水質調査を行いました。水質はきれいな水のレベルでした。

8月30日浅川と川口川の合流地の造成ワンドの水生生物と水質・水量調査を関係団体と行いました。大雨で何度か冠水した後もワンドの形態を保ち、新たに水草のミクリも生え、水量も確保され、魚も群れ泳いでいます。



ワンドの水質調査

### 5. 環境教育・環境学習などの推進

9月12日に予定していた自然体験講座「浅川ふしぎ探検」は浅川の増水で取り止めました。

中央地区における小学校環境教育（4校）の支援活動（7回）にスタッフとして会員延べ48名参加しました。

八王子浅川水辺の楽校運営協議会への協力は、7月18日の「ガサガサ探検隊」が取り止めとなりましたが、「アユ・ウグイの放流」イベント（4回）にスタッフとして会員延べ12名が参加しました。5月17日桑都ライオンズクラブの「川で遊ぼう」にスタッフとして会員3名、9月5日「水辺の環境教室」にスタッフとして会員2名参加しました。川のイベント活動を通して、絶滅危惧種のホトケドジョウの生息範囲の拡がりやカジカを確認することが出来ました。



小学校環境教育支援活動

### ■特色のある取組

#### 1. 「都小学校生活科・総合的な学習教育研究会の先生の川の研修」の支援活動

8月4日にスタッフとして会員2名参加しました。

#### 2. 環境パネル展などへの参加

環境パネル展（8月）及びエコひろばでの環境市民会議活動パネル展（2月）に参加しました。

#### 3. まちのみどりの保全啓発のため、自然体験講座開催「まちなかウォッチング」を実施しました。

#### 4. 市役所前通りのアドプト活動に会員5名が毎回参加しました。（毎月第二土曜日。8月は休み）

#### 5. 市内の街路樹を表したグリーンマップを環境フェスティバルや市民センターまつり等で、約2000部配布し、まちのみどりの状況について周知しました。



### 北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区の東地区は住宅地が開発されています。その中に、従来からの緑地が保存緑地として保存されている箇所もあります。西地区は南・北加住丘陵があり、豊かな緑が残っています。地域の中央を谷地川が流れ上流では従来からの自然護岸が残っています。一方、交通面では、国道16号、同バイパス、20号、滝山街道に加え、新滝山街道が開通し、中央高速道八王子ICの他に、圏央道あきる野ICが近くに建設され、交通の要衝となっています。このような状況の中で、以下の問題も顕在化してきており、多分野からの対応を求められています。

- ・ 谷地川上流部での水質・水量の改善
- ・ 加住丘陵などで、手入れが行われない樹林地の存在
- ・ 生活の場所から見えない場所でのごみの不法投棄
- ・ 環境保全活動が共通の認識になっておらず、温度差がある
- ・ 小・中学生が地域にある貴重な自然資源や文化、歴史を知る機会の少なさ
- ・ 地域内の幹線道路の多くの交通量による大気汚染悪化の懸念

## ■ 北部地区の主な取組

### 1. 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の7地点（6月のみ8地点）を対象に、COD（パックテスト）、pH、電気伝導度、溶存酸素量を2か月ごとに定点観測し、生物調査を1回実施しています。全国一斉水質調査を6月7日に実施し、調査が開始されてから、全てに継続して参加しています。市主催の「川の清掃デー」に参加し、滝山2丁目町会と協働して谷地川の清掃を実施しました。また、季節ごとに谷地川の2か所で流量測定を実施しました。



水質測定状況

### 2. 緑地保全活動

北部地区の活動団体と一緒に、市内の都有地・市有地の緑地保全整備活動を実施し、市内に残る里山雑木林の保全に貢献しています。対象とする緑地は、大谷緑地（活動回数：24回／年）、中野山王緑地（12回／年）、暁町緑地（12



林内状況（伐採前）



林内状況（整備伐採後）

回／年）、大和田緑地（6回／年）、栗の須緑地（6回／年）、戸吹北緑地（30回／年）、滝山城跡（12回／年）です。大谷緑地では20年サイクルで一部区域（1500㎡）を皆伐し、萌芽更新を目指した里山管理を実施しました。

### 3. 環境教育・環境学習などの推進

小学生の自然体験は、楽しみながら自然を学ぶ場になっています。市内の他団体とともに、小宮小学校4年生を対象にして、多摩川の自然を現地で学ぶ授業を支援しました。「①多摩川の概要を感じてもらう ②課題テーマを決めて調べる ③学校での調べ学習 ④校内発表会」の延べ4回で、環境教育として体系的なプログラムであり小学生には非常に有効です。最終的に活動の概要を示すパネルを作成しました。大和田小、第八小、緑ヶ丘小、渋谷区の代々木山谷小に対しては、里山林の意義、活用の仕方を学ぶ場として活動を実施しました。大学生に対しては、東京グリーンキャンパスプログラムとして、首都大学東京の学生約20人に対して年2回、また、企業を対象にして、東京グリーンシップアクションとして、6社に対して緑地の整備の体験を通して環境問題、緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。



小宮小学校（川の学習）



東京グリーンシップアクション  
(シイタケの桐木づくり体験)

### 4. 大気汚染測定

地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所を対象に調査を実施しました。調査地点数は、32か所の定点調査で、年2回（6月、12月）実施しています。計測の結果、測定地点の特異性は継続しているが絶対値は減少の傾向が見られました。

### 5. 地区の環境マップ作成

現在使用している環境マップの更新を目指し緑地保全活動地区の樹木調査を進めています。

現環境マップは各種イベントで配布し、北部地区を知ってもらうために活用しています。

## ■ 特色のある取組

#### 1. 八王子環境フェスティバルへの参加

環境フェスティバルに参加し、メンバーが作成した環境パネルの展示や、谷地川で捕獲した魚・水生生物を水槽に展示しました。来場者には、メンバーが育てた草花の苗や地区で咲いている植物の写真のしおりを配布しました。また、市民の方に、季節ごとに集めた押し花によるしおり作りを楽しんでもらいました。

#### 2. 環境パネル展への参加

市主催のパネル展とエコひろばでのパネル展示に協力しました。  
（8月、10月）

#### 3. 自然体験講座の実施

滝山城址と高月地区の田園地域を散策し、風景と自然を感じる講座を3月に実施しました。参加した方には、地域に咲いている花や緑地に来る鳥を説明する「しおり」を配布し、地域の豊かな自然の記憶を持ち帰ってもらいました。11月に計画した「滝山城址の自然と歴史を知る講座」は降雨のため中止しました。



自然体験講座 カタクリの観察

#### 4) 市民センターまつりへの参加

私たちの活動状況を地元の方に見ていただくために、加住・石川の両市民センターのセンターまつりに活動内容を説明するパネルを展示しました。



加住市民センターまつり



### 西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は八王子市の西に位置し緑豊かな自然に恵まれ、多様な生態系が形成されています。このような環境の中で浅川の源流でもある案下川を始め醍醐川、小津川、川口川、大沢川や城山川では、保水力や浸透性が低下したためか水量の減少や瀬切れが目立つようになっています。

また、外来植物などの異常なまでの繁茂は景観を損なうばかりか、恰好のゴミ捨て場にもなっています。当地区では年数回のクリーン活動に併せ、外来植物の駆除も行っていますが限界があり、特に河岸で成長した大きな草木の処理は市の力も必要としています。

大気汚染については、地区内には幹線道路の陣馬街道、秋川街道、高尾街道があります。その各交差点を含む地域20か所で大気汚染測定を実施しています。

明るいニュースとして地区内に27年4月に開校した、都と企業の協同による「高尾の森自然学校」では、その後の整備も進んでおり「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄から学ぶ」の基本理念のもと、野鳥観察会や森林ボランティア体験などを通して環境の大切さ有難さを学ぶ事ができます。

## ■ 西部地区の主な取組

### 1. 環境教育支援事業の実施

#### (1) 環境教育支援

小学校への自然体験学習は毎年恒例となってきました。地域の「川と水・植物・生き物・石」と「ゴミの分類」など共生する環境を知る事を楽しみながら生き生きと学ぶ姿は、ほほえましくもあます。

27年度は川口小と元八東小で各2回、元八小、恩方第二小、浅川小では各1回ずつ、4年生とその父兄の皆さんと共に学びました。



自然体験学習

#### (2) 式分方小学校のダンボールコンポスト支援

「生ごみ」は可燃ごみの約半分を占めていると言われており、いかに減らすかが課題となっています。

西部地区にある式分方小では25年度から「ダンボールコンポスト」を利用した生ごみの減量と資源化に取り組んでいます。

「ダンボールコンポスト」とは、ダンボール箱に基材となるもみ殻くん炭等を入れ、風通しの良い家庭のベランダや軒下などに置き、毎日生ごみを入れることで手軽に「たい肥」が作れる事を言います。27年度も支援をしました。



ダンボールコンポストで堆肥作り

たい肥の原料となる生ごみは保護者に協力してもらい、児童（４年生）が学校に持ち込み、量と温度を記録してから箱（２７年度は１２個設置）に入れます。児童の作業姿勢はいつも真剣です。約１か月程度で熟成期間に入ります。

こうして出来上がった「たい肥」は野菜作りに使用し、収穫物は児童が家庭に持ち帰るほか、学校給食にも使用されています。学校と保護者が協力し、小学生の時から「ごみ」問題に関心を持つ事の意義は大きいと言えます。

## 2. 大沢川・城山川 のクリーン活動

元八王子地区の大沢川と城山川は住宅地で合流し北浅川に注いでいます。部分的に遊歩道が整備はされていますが、ごみの投棄は相変わらず多く当市民会議では年４回程、可燃ごみ、ペットボトル、プラスチック、空き缶や空き瓶などを収集しクリーン化を進めています。

その都度ボランティア袋で１０袋以上を収集していますが、ごみ問題に対する地域住民のさらなる意識の向上を望むところです。



大沢川での活動

## 3. 特定外来植物の駆除

城山川と大沢川に繁茂している特定外来植物のアレチウリ、ブタクサ、キクイモやセイタカアワダチソウ等の刈込駆除を川のクリーン活動に併せ実施しています。種が落ちる前の８月から９月にかけて刈込も行っています。

繁殖が著しく、大株化している多年草の「ギンギン」は根元から切取る駆除を大沢川の村長橋から戸割橋の間とさくら公園前で行いました。



外来植物の刈込み・城山川

## 4. 河川・湧水の水質調査

水とみどりの研究会主催の「水環境の全国一斉調査」に加わり、地区の大沢川や城山川などで水質調査を継続して行っています。

順次調査場所も増やして経過を観察していますが、水質こそ良好に推移しているものの“水量”は毎年減量しつつあり、生き物の生態系の変化を注視しています。また、２７年度より歴史のある川口町十二社弁天池湧水も調査場所に加えました。

## 5. 大気汚染の測定活動

７７回目の大気汚染の測定（ $\text{NO}_2$ ）に参加し、地区内２０か所で行いました。

注視したい場所は横川町にある「つつじヶ丘トンネルの西八王子駅方出口付近」及び「高尾街道の元八三丁目交差点」です。いずれの場所でも近年では基準値を超える数値が出ており、主な原因として交通量の増加が考えられます。



### 西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西南部地区は高尾山の豊かな自然、多様な生き物、史跡など恵まれた環境にあります。麓の駒木野では希少植物を保護する団体とともに小仏川沿いの野草の観察会を行っています。この自然環境を守るためにも、多すぎる来場者が分散されることが望ましいと思います。南浅川、湯殿川の貴重な水辺では水質の改善は進みましたが、ポイ捨て、ごみの散乱、草の繁茂など適切な手入れを必要としています。湯殿川では蛍やホトケドジョウの保護を訴え、7年越しの護岸工事を終えた今、生き物の検証が必要です。今後の工事の在り方に参考事例となり、親しめる川づくりと生き物の生息環境の維持に繋がります。東浅川的大型商業施設開発の影響を考慮してNO<sub>2</sub>観測点を増やしました。また、小学校の環境教育支援、いちよう祭りのごみ分別指導、自然観察会などは継続性に注力し取り組みます。

## ■ 西南部地区の主な取組

### 1. 高尾山の環境保全活動

高尾山自然調査は指標樹木の樹勢（健康度）を目視観察により記録し、年々の変化を調べています。6月は6号路から1号路、蛇滝口の22本の指標樹木を会員6名で調査しました。28年3月に1号路から薬王院、頂上、4号路を経て蛇滝口の指標樹木15本を会員12名で調査しました。過去10年間の記録写真比較では（2本を除き）大きな変化はありませんでした。



高尾山頂（調査メンバー）

### 2. 地域の宝の掘り起こし

10月に自然体験講座「地域の宝を掘り起こし」を開催しました。「エコミュージアムマップ」の市街編の改訂版の8コースの中から自然探索コースを案内しました。参加者26名でみころも霊堂、初沢山、高乗寺、四辻を巡り、「高尾599ミュージアム」の広場で説明して解散しました。裏高尾神明神社境内で都内では珍しい「ヒメハルゼミ」の生息を確認しました。



### 3. 里山の保全活動

駒木野の野草の保護は地元の野草保護者と協働で継続して取り組み、4月に「春の花観察会」を行いました。池の沢に蛍を増やす会と協働で、一般募集で6月に「蛍観察会」、8月に自然体験講座「里山探検隊」、9月に「保全地域体験講座」と「東京グリーンシップアクション」であずさ監査法人の作業指導を行いました。28年3月「野鳥観察会」を八王子館町緑地保全地域で行いました。里山の地域の宝の調査は西南部地区内を分担し、45か所を調査（現状、所感、景観写真）した結果をまとめた「調査書（18ページ）」を発行しました。

### 4. 親しみのある水辺環境の構築

#### （1）流域の水質調査

6月7日の全国一斉検査を実施しました。好天続きで、流水の透明度も良く、水量も豊富でした。頤明館高校溜池流水（殿入川上流）のCODは3～4以外ほぼ水質は安定しているが、水辺環境は雑草が生い茂り水遊びは出来ない状態です。湯殿川の水生生物は多くの小魚が生息し、境橋下流には大型の鯉が多数遊泳しています。山田川上流端のCODは2であり、前年より若干低い値を示しています。案内川、小仏川のCODは0で良好でした。



## (2) 水辺のすこやかさ調査及び川の清掃活動

5月17日に湯殿川の清掃と水辺のすこやかさ調査を参加者15名で実施しました。水辺のすこやかさ調査は、調査項目のうち水の様子、水辺・川底の様子、自然環境、地域環境の結果は前2年間の結果とほとんど変わらなかったが、水辺遊園の評価値は前より低下しました。この原因は、水辺に親しむ3項目が低いためと分かりました。地域河川の湯殿川の清掃は田中橋から和合橋間の川底及び両岸（通路）のごみ拾いを行いました。（収集ごみ総量：45L×16袋、他に自転車など粗大ごみ有）、実施に当たっては地元町会長を訪問し、チラシ配布、活動内容の説明を行いました。



湯殿川河川内・通路の収集ごみと参加者

## 5. 環境パトロール

### (1) 高尾山及び殿入中央公園周辺のパトロール

6、9、12、3月に登山道、構築物等の変化、樹木の伐採等を視察し野草、野鳥、昆虫等を観察して記録し、合わせて6月と3月は樹木調査とコースのごみ拾いも実施しました。

28年3月18日に殿入中央公園周辺のごみの不法投棄状況調査を参加者11名で2班に分かれ、各自ハサミとごみ袋をもってパトロール中に、道路わきの広い領域に大量の不法投棄を発見し、ごみ収集結果はごみ袋大小20袋、タイヤ12本、テレビ1、プリンター1、金庫1、ボンベ2本などあり、館清掃事業所に連絡し引き取りをお願いしました。

### (2) 大気汚染測定（NO<sub>2</sub>）

大気汚染調査（NO<sub>2</sub>測定・分析：6月、12月）を行いました。27年度は12月から、大型商業施設開店による交通渋滞の影響を考慮し、町田街道と高専通りのT字交差点の南北に2か所の測定地点を追加して測定しました。その結果、追加した2か所の測定値は0.034と0.030と相対的に高い値を示しました。その後の交通渋滞は開店当初より若干落ち着いていますが、今後継続して測定し、影響を注視して行きたいと思います。

## ■ 特色のある取組

### 1. 市立学校環境教育支援

西南部地区内の小学校5校で行い、同一校で2学年支援した学校は、浅川小（3年生と4年生）及び東浅川小（4年生と5年生）です。各学校周辺の自然に触れ合うための総合学習として、近くの河川、丘陵に行き、自然環境の基本調査や生き物調べ、川のきれいさ等の実習補助を行いました。（7学年 27日間 支援者延数157名）

### 2. 地域（東浅川地区町会）及び親子川辺の自然体験

7月26日南浅川にて生物観察・川の水質改善・汚れと浄化などの指導を行いました。同時に当会活動内容のパネル10枚を展示しました。8月8日の親子川辺自然体験は北浅川において水生生物の調査と観察、水質測定や水の透視度測定を通じて、川的环境学習支援を行いました。



東浅川地区町会の親子：水の汚れと浄化の講話

### 3. 第36回八王子いちょう祭りの環境支援活動

いちょう祭りのごみ分別活動に取り組み10年以上経過しています。11月21～22日、来場者50万人を超える中、当会が事業者（完山金属）の協力を得て、高校生（桑志高校、富士森高校）、学生（国際学生ボランティア協会）280余名を指導し、可燃ごみ量が5tというイベントに取り組みました。年々、来場者のごみ分別意識の向上は永年継続した取組の成果と考えています。

### 東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部地区のみどりは、周辺地域の小規模開発により減少しています。一方、手入れの行き届かない里山も見受けられます。

河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行っています。COD値はきれいという基準値の1～2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られますので、一層の清掃活動と啓発活動が続ける必要があります。

年2回の6駅周辺のごみを種類ごとに数えることにより「きれいさ評価」を行っています。たばこの吸い殻のポイ捨ては気になるものの、たばこの吸い殻を含めたごみ全体としては非常に減少しており、街全体としては年々非常にきれいになっています。

大気汚染の状況は東京一斉NO<sub>2</sub>測定に年2回参加し、継続して測定していますが、16号バイパスでは数値が悪い場所が多く、今後とも注目していく必要があります。

地域とのつながりを大切にして街の美化、河川の美化に努め、美しい街にしていきたいと思っています。

## ■ 東南部地区の主な取組

### 1. 市民センターまつりへの出展

当地域では10月に由井市民センターまつり、11月に北野市民センターまつりと由井市民センターみなみ野分館まつりが実施され、6駅周辺の道路のごみの状況を半年ごとに調査した状況を「きれいさ評価」としてまとめたもの、河川の水質の状況、省エネ対策や東南部地域の散策用に作成したハイキングマップや街路樹マップをパネルで展示し啓発活動を行いました。

### 2. 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月にエコひろばで自然エネルギーの座学とソーラークッキングの実験を行い、再生エネルギーへの関心を高めるとともに、小学生と付き添いの保護者に実際にできた焼き芋を食べて太陽エネルギーの力を実感してもらいました。

2月には低炭素杯2016に参加し全国で行っている活動を実感し、会員のレベルアップを図りました。



ソーラークッキング

### 3. 東南部駅周辺のきれいさ評価や北野駅周辺の清掃活動

年2回区域内の6駅周辺の「きれいさの評価」を行っています。依然としてたばこの吸い殻のポイ捨てが見られるものの、市、町会・自治会、事業者、学校、各種団体、個人ボランティアなどの美化に対する思いが効果を表して、落ちているごみは非常に少なくなり街全体としては年々非常にきれいになっています。12月には市と北野町会、打越町会との協働により北野駅前喫煙マナーアップキャンペーンを行い、チラシとティッシュペーパーを配ってたばこのポイ捨てをしないよう



呼びかけました。毎月の活動として北野駅周辺と湯殿川下田橋周辺のごみ拾いをして街の美化と啓発に努めました。

#### 4. 河川の水質調査と清掃

6月の全国一斉調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行い、12月には同じ地区で独自の水質調査を行いました。COD値はきれいという基準値の1～2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られるので、一層の清掃と啓発活動が続ける必要があります。

河川の清掃は4月に浅川流域市民フォーラム、都、市、長沼町会と合同で浅川の清掃を行いました。参加人員は長沼町会の40名、一般参加の5名を含む62名でした。7月と11月には湯殿川の清掃を都と市の支援を受けて計画し流域町会にチラシで呼びかけて実施しました。

#### 5. 地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座

自然体験講座は7月と10月の2回行いました。7月の「イカダで川下りと生き物観察」には親子15組が参加し、親子で会話を楽しみながら竹を縛って浮き輪を付けてイカダを作り、川へ持ち込んで川の楽しさを親子で体験してもらいました。参加した方々からは川の水がきれいだということ、川にいろいろな生き物が多くいるということ、自然と遊ぶことができてすばらしかったという感想をいただきました。



イカダで川下り



生き物観察



歴史と自然を訪ねて

10月の自然体験講座は「わが町 北野周辺 歴史と自然を訪ねて」を行い41名が参加しました。コースは北野駅を出発し七日市場にある八坂神社を見学、子安市民センターで休憩、くりから竜王を経て六万坊の祠の説明。京王線と横浜線が平行に走る小野路街道踏切を渡り山田川沿いを歩いてエコひろばで昼食、その後さわやか緑道を通して大和田橋に到着。第二次世界大戦八王子空襲の一番東側にある大和田橋の焼夷弾被弾痕跡見学と説明を行い、エコひろばに戻って解散する道程でのんびりと1日を過ごしました。自然と歴史に触れる1日でした。

### 東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧・由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、また、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区は、空気や水の供給源であるみどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものが生きていくことができる環境として守られています。

古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足し、以来30年余にわたり、多くの住民の努力によって多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。

今では別所地区の面積19.8haの『長池公園』、堀之内地区の面積5.2haの『堀之内寺沢里山公園』が整備され、隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した緑地に囲まれた住宅地域になっています。

さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された『宮嶽谷戸』のみどりの保全活動も進めています。

## ■ 東部地区の主な取組

### 1. 里山保全活動の推進

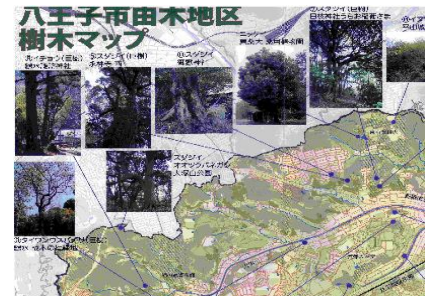
長池公園や寺沢里山公園、堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。

『長池公園』では「長池里山クラブ」が活動主体になり、毎月第2土曜日を中心に、火曜日と土曜日にスタッフによる保全活動と活動の事前準備を行っています。27年度の初回は、雨天のため、1日順延した4月12日に行い、大人、子どもを含め68名が参加しました。主な活動は、例年通り、4月の「炭焼き」、6月の「田植え」、10月の「稲刈り」、12月の「収穫祭」での『餅つき』、が主な活動で、正月には“どんど焼き”を行い、2月の「炭焼き」、そして、3月の「椎茸の駒打ち」で年間行事を終りました。さらに27年度は、公園課の要請で、炭焼きで出来た炭の放射能測定を実施しました（結果は、許容範囲）。

『寺沢里山公園』では、毎週土曜日に、『まちづくり里山楽友会（寺沢里山楽友会）』が30人前後で活動をしています。

『八王子堀之内里山保全地域』では、主に堀之内里山管理協議会（「里山農業クラブ」、「ユギ里山保全チーム」、「多摩丘陵の自然を守る会」で構成）が、耕作を放棄されて荒廃した「谷戸源頭部」

のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い里山の保全整備を推進しています。多摩丘陵の自然を知ってもらうため、毎年2回、『自然体験講座』として、春は4月19日に中山・鍵水地区、秋は10月25日に寺沢・堀之内方面で、植物を観察しながら歩く会を実施しました。



東部地区・樹木マップを発行



市民センター祭りで活動報告



## 2. 花壇の維持・管理

南大沢駅前のペデストリアンデッキに設置してある大型花壇22基の維持・管理を実施しています。

南大沢駅前の花壇管理は、市の道路アドプト活動として、『南大沢みどりのサポーターの会』が主体で、毎月2回実施しています。27年度は、4月21日に「春苗」の植付けを行いました。駅前の企業が新規会員として参加があり、また、道路交通部に活動看板を設置してもらうとともに会員募集を行いました。

6月に「夏苗」の植付けを行い、7月中旬から8月一杯は、毎週交替で“夏の水やり”を実施しました。

秋の恒例の『南大沢市民センターまつり』には、9月24日からのコンテナガーデンコンテストに参加しました。冬に向けて、花壇の土壌改良を行い、11月に「冬苗」を植付け、3月15日の総会で『総括・反省』を行い、27年度を終了しました。



苗の植え込みと水やりサポーターの会

## 3. 環境教育支援事業の推進

環境学習支援活動は、地区内の小・中学校で、環境教育の支援を実施しています。

由木東小学校では、4年生（100名）に、6月30日と10月22日に浅川・ふれあい橋付近で、10月9日に大栗川の番場橋付近、沖の谷戸で学習を行い、12月1日には講堂で発表会を行いました。また、柏木小学校5年生（58名）には、8月27日に浅川のふれあい橋付近で、松が谷小学校5年生（48名）には、10月20日に浅川のふれあい橋付近で、体験実習を行いました。



松が谷小学校・川の学習支援

## 4. 大気汚染測定と水質調査

大気汚染の調査と河川の水質調査は、毎年、関係団体と協働してそれぞれ実施しています。

大気汚染の調査は、毎年6月と12月に行われる「大気汚染測定運動東京連絡会」の主催する全都一斉測定に参加し、6月4日～5日と12月3日～4日の2回に23か所で実施しました。

河川の水質調査は、6月の年1回の「全国一斉水質調査」に、「浅川流域市民フォーラム」と連携して行っており、27年度は、増水のため6月13日に変更し、大栗川3か所、大田川2か所、大栗川支流5か所の計10か所で測定しました。（データは、「環境白書」（データ集）に掲載。）

## 5. 環境関連団体との交流

引き続き、「多摩丘陵里山連絡会」との連携をとるとともに、環境保全で活躍する各種活動団体と情報交換をし、活動支援を行っています。「多摩丘陵の自然を守る会」、「長池里山クラブ」、「南大沢みどりのサポーターの会」、「寺沢里山 楽友会」のほか、「里山農業クラブ」、「NPO法人 YUGI」、「トウキョウサンショウウオを守る由木の会」、「鱧水“蛍の里”」、「小山内裏公園の会」などと連絡協調しています。都の自然保護条例による「堀之内里山保全地域」の里山保全管理活動に関しては、環境保全課からの要請に基づいて、「多摩丘陵の自然を守る会」ほか地元の堀之内の各組織も協力しています。



## 地域行動編評価一覧

27年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

### ＜中央地区環境市民会議での総括評価＞

27年度は主な取組5つの項目に関し、各部会は準備・企画・実行と充分に取り組めたと考える。その中、大雨のため川部会のイベントが中止、また温暖化防止活動の一つであるグリーンカーテン啓発用配布分として会員が育てたゴーヤが育ちすぎた等、身近に気候の変化を感じた一年であった。浅川では、絶滅危惧種のホトケドジョウの生息範囲の広がりやカジカを確認するなど、水生生物の生息環境は年々良くなっている。市民へ、このような啓発活動を広げるためにもNP0の存在は大きく、「みんな集まれ委員会・もったいない委員会」また「生ごみダンボールコンポスト・環境学習8期生養成講座担当者」などとして多くの会員が参加・活動をしている。28年度からは温暖化防止センター「省エネアドバイザーの会」に参加していたメンバーから7名が、八王子市地球温暖化防止活動推進センター（クールセンター八王子）の八王子市地球温暖化防止活動推進員としての活動を始める事も、今迄の活動の結果と捉えている。会員の出来る範囲で分担して、中央地区を支える形を継続して行きたいと考える。

### ＜環境推進会議での相互評価＞

クイズ形式で行うごみ分別徹底の啓発や、町会・自治会の集会所を使った省エネ講座の開催など、地元に密着し親しみやすい活動を展開しており、その活動は高く評価できる。浅川での活動としては巡回パトロールをはじめ、ウグイ放流イベント、「水辺の楽校」への協力、浅川での環境教育支援など積極的に行っている。28年4月から開設された「クールセンター八王子」に協力していただくとともに、今後とも市民に向けた温暖化防止活動を、活発に進めていただきたい。

### ＜北部地区環境市民会議での総括評価＞

緑地保全活動については、地域にある団体「八大緑遊会」「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協働で継続的に実施している。緑地を保全・更新させる活動は、内容・頻度も十分と考える。

26年度に引き続き、谷地川の清掃活動に参加し、町会の方々と一緒に行った。谷地川の水質と生息生物の調査を定期的に行い、データの蓄積を行うことができた。水量調査も併せて実施した。

環境教育支援・環境学習支援では、地域にある自然資源を利用して実施した。小宮小学校の環境学習支援では、多摩川を対象にした観察を実施し、調べた結果を元に、さらに図書やITを使って自ら調べる手助けを行った。また、市内外の小学生に、保全活動を継続している里山林をフィールドとして、緑地整備や、緑地の利用を体験する活動を実施した。

地区の環境マップは、環境パネル展や自然体験講座などの活動の中で配布を行い、北部地区の自然環境を紹介することができた。

大気汚染調査は継続して年2回の定点観測を行い、データの蓄積を行うことができた。

加住及び石川市民センターでの「センターまつり」に参加し、市民会議の活動状況をパネルで展示・紹介、会員募集を併せて行った。センターまつりは文化祭的であり、今後は、環境に特化した展示の場を設け、活動の周知を図ることを検討したい。

北部地区は自然に恵まれた加住丘陵と歴史のある滝山城址や都市の中に点在する多くの緑地、地域を貫流する谷地川を有している。これらを保存し、活用した活動を行うことができた。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、企業、学生の保全活動の支援や小中学生への緑地整備体験の実施など、市内に残る里山林の保全活動の啓発に対する貢献度は高いと評価できる。また地区内の谷地川での継続的な水質調査に加え、水量調査、生物調査を行い、河川の保全にも努めている。滝山城址での保全活動や自然体験講座の開催は、市の施策である滝山観光推進ともつながるため、今後も地域と連携して良好な環境づくりに努めてもらいたい。

#### ＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

地区の主な取組に対して、計画通りに実施ができた。「環境レポート」の発行をすることにより、地域住民に対して環境情報の発信を継続的に行っている。今後も会員の協力をいただいて、地区の取組を進めていきたいと考える。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

広い地域を抱えながらも河川の水質調査や湧水調査をはじめ、大気汚染測定など継続的に取り組んでいることは高く評価できる。大沢川や城山川のクリーン活動などの清掃活動を継続し、その実績を「環境レポート」として地元町会などへ情報発信していることは、地域と連携して環境保全活動を進めていく上で重要だと考える。今後も地域と協力した活動を拡大してもらいたい。また、ダンボールコンポストを活用した学習授業支援は引き続き取り組んでいただきたい。

#### ＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

高尾山の環境保全活動の高尾山樹木調査は、圏央道開通に伴う環境への影響調査で2006年から今年で10年となる。識別できるほどの変化はない。これから専門家による分析評価を行う。今まで、高尾の麓にミュージアムの建設を要望してきた。8月に高尾599ミュージアムが開館した。

親しみのある水辺環境の構築では湯殿川の清掃活動を2回行った。まだまだ、不法投棄が多い。啓発活動の継続は必要である。湯殿川生き物調査は22年の湯殿川改修工事に関して水生生物の保護を訴えてきた当会活動の最終段階である。保護は順調である。モニターは今後も継続する。

里山の保全活動は自然観察会、自然体験講座、里山保全体験講座を6回開催した。一般市民、親子、企業関係者191名が参加した。環境パトロールは成果として不法投棄の数量が以前より減っている。しかし、投棄物の重量、大きさ、捨て方から、遠方からのトラック搬入と思われる。この人たちにはパトロールの効果が出ない。検討を要する。地区の宝掘り起しはエコマップ市街編を改訂した。地元の残したい宝を初めて知ったと多くの人に喜ばれた。小仏川沿いの野草観察会は珍しい野草がある、野草の種類や数が多いことで大盛況であった。これは当会の野草保護活動の成果である。環境教育支援は小学校5校、計26回、当会員延158名の参加で行った。もっと参加校も回数も増えることが望ましいがそれには会員の増加が必要である。地域と連携しての活動は大いに進展した。提携先にも喜ばれ今後も継続する。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

保全活動を行っている里山で実施する観察会や体験講座、地区内の自然や史跡などを紹介する地区の宝の掘り起しには多くの市民が参加しており、環境意識の向上につながっていると高く評価できる。高尾山で継続して実施している自然調査は、良好な環境を保全していく上で有益な指標となる。今後も高尾山の良好な環境づくりにつなげるため調査・保全活動を継続してもらいたい。

いちよう祭りでやっているごみ分別指導など、地域他団体や地元町会などと連携した活動は地域貢献に大きな成果をあげているため、引き続き取り組んでいただきたい。



#### ＜東南部区環境市民会議での総括評価＞

ほぼ計画とおりに実施できた。地域との連携した活動を心がけているが、町会・自治会とは活動の方向が違っているので難しい。駅周辺や河川の清掃をしていると挨拶をしてくれる人がいる。すこしずつ輪を広げていくことが必要。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

東南部地区内6駅周辺のごみの量によるきれいさ評価は、継続して実施していることからデータとして確認できることは高く評価できる。町会と連携した喫煙マナーアップキャンペーンや清掃活動により、きれいなまちづくりへの効果も表れている。また、小学生に向けた自然エネルギー講座や、自然体験講座「イカダで川下り」などとてもよい体験講座となっている。今後も引き続き、地域と連携した清掃活動やこれらの講座を行い、より多くの人の意識啓発につなげていただきたい。

#### ＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

里山保全活動の推進は、ニュータウンによって開発された「東部地区」に転入してきた住民の「みどり」に対する関心が高く、開発についても、“自然保護”を基本に行われている。「東山地区」の開発も終わり、昔からあった自然を維持・保護した『長池公園』と『堀之内寺沢里山公園』、そして、町田市と境を接する『都立小山内裏公園』の代表的な場所と、堀之内に都が指定した「堀之内里山保全地域」があり、これらにはそれぞれアドプト活動として、あるいは、ボランティア団体として参加による保全活動が行なわれている。また、南大沢駅前のペDESTリアンデッキの「花壇の維持管理」は、都から引き継いだ花を愛する南大沢の女性グループが中心になり、周辺の学校・企業の参加と、八王子市の協力による花苗を用いて、月に2回以上の活動と、夏期の炎天下での散水などにより、維持管理を行っている。29年に迎える市制100周年記念の「全国都市緑化はちおうじフェア」サテライト会場に予定されていることから、準備に力を入れている。

環境関連団体との交流は、随時、各団体との情報交換を行っているが、それぞれの活動の実施日の関係と、構成員の高齢化もあり、一堂に会して、または、定例会への出席が難しい点が検討を要する点である。大気汚染測定と水質調査は、それぞれ関係団体と協力し、概ね計画通り実施出来た。

環境教育支援事業の推進は、エコひろばの推進により、由木東小学校ほか2校に対して実施することが出来た。ダンボールコンポストの普及活動については、「ダンボールコンポスト」の入手手続きのシステムが遅れたために、行事が延期された。各市民センターまつりへの出展については、再度全域参加を達成したい。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

実踏を重ね作成した「自然観察路マップ」は多摩丘陵の里山や長池公園や堀之内寺沢里山公園などの都市公園を紹介しており、地域の環境を知り、環境意識の向上を図るために効果的だと評価できる。公園管理を行う団体や環境保全で活躍する様々な団体と連携して行っている里山保全活動は、良好な環境づくりのためにもとても重要である。今後も良好な環境づくりに努めていただくとともに、南大沢駅前をサテライト会場のひとつとして開催される「全国都市緑化はちおうじフェア」にもご協力いただき、盛り上げていただきたい。